

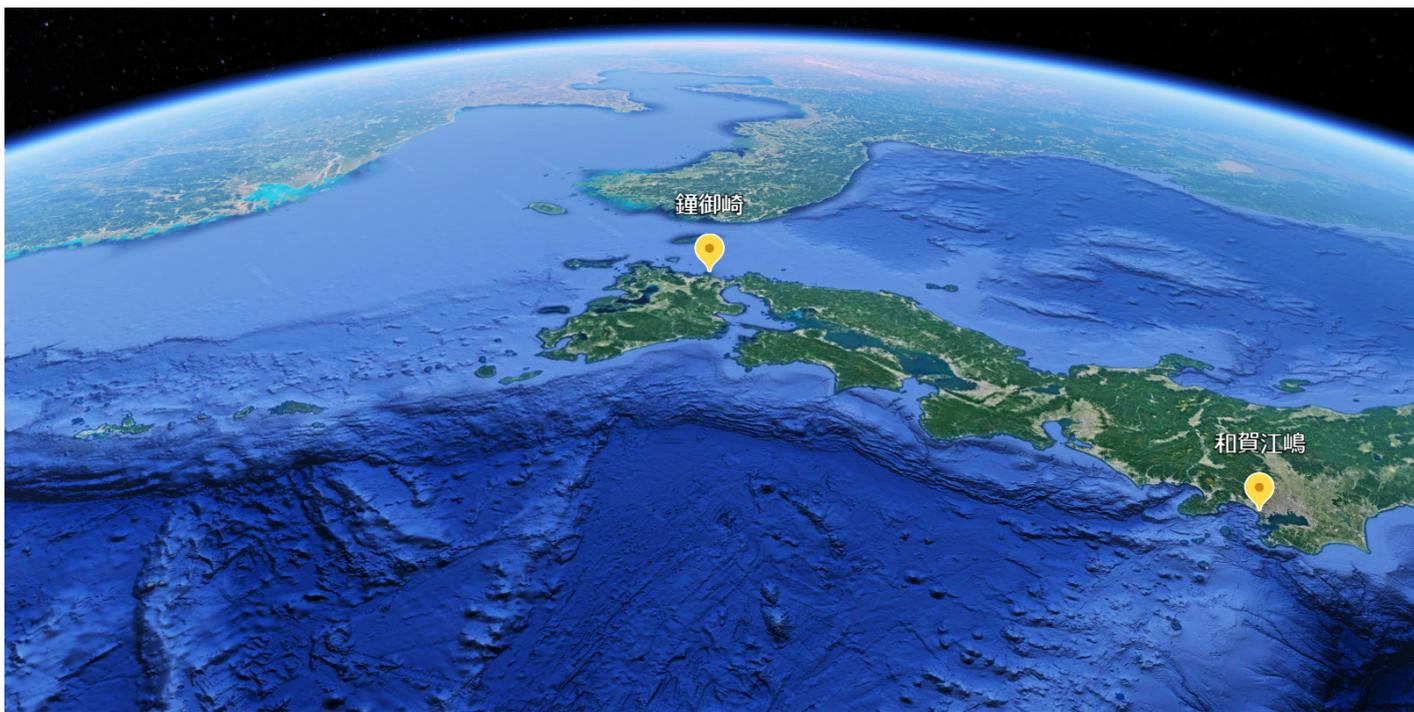
# 三浦氏の日宋貿易と 筑前鐘御崎・鎌倉和賀江嶋の築港

■講師:鈴木 かほる

2022年1月22日(土) 14:00~16:00

Zoomにて開催 (ルームオープン 13:30)

参加費無料



GoogleEarthより

承久の乱(1221年)後、後鳥羽院の敗北によって、宗像社領は將軍家が領家となり、駿河守三浦義村の嫡子泰村が預所として莊務を管理することになった。これにより宗像地域を支配し南宋貿易に携わってきた海洋豪族・宗像氏は、幕府御家人に組み入れられ、三浦氏が南宋貿易を引き継ぐことになる。筑前国鐘御崎および鎌倉和賀江嶋は、その日宋貿易の絶頂期に相次いで築かれた人工島である。

この二つの築港の勧進僧は往阿弥陀仏であり、依頼者は南宋貿易の權益を掌握していた三浦泰村とその父三浦義村と考えられる。

■鈴木 かほる (すずき かほる) 日本海事史学会会員、国家公務員特別職

- 関心をお持ちの方ならどなたでもご参加いただけます。  
メールでお申し込みください。  
※希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。  
お申込みいただいた方には1月19日(水)までご連絡いたします。
- 会員にはメールでご案内をお送りしています。  
メールが届いていない方は、右の申込先までお問合せください。

■申込〆切:2022年1月18日(火) 正午(12:00)

■申込先:kaijishi.web@gmail.com (担当:大野)

メールの件名を「日本海事史学会Web例会申し込み(非会員)」  
として、本文にはお名前をお書きください。

[今後の例会 開催予定日:2022年2月26日(土)・3月26日(土)・4月23日(土)]

日本海事史学会は、海事一般に関する歴史・法律・民俗・水産・考古・船舶・航海・海運など、海事史だけにとどまらずひろく海の人文科学、社会科学等あらゆる分野に関心を持つ学界や在野の研究者の方々の交流をはかる総合研究の“場”です。

【主な活動】専門学術誌『海事史研究』の発行(年1回)／総会(年1回)・例会(8月と総会開催月を除く年10回) など

